

【議事】定 45

(1) H- A ロケット 11 号機による技術試験衛星 型「きく8号」
(ETS-)の打上げ結果について(速報)

先ず、JAXA の立川理事長がお礼を述べ、資料 44-1(ETS- 打上げ)のロケットの部分を河内山理事が、衛星の部分を辻畑プロマネが説明した。その後下記の短い質疑応答があった。

井口:アンテナをまだ広げていないので、道半ばという感じですが、
今後を期待しています。

青江:打上げの迫力はかなり違いましたか。

JAXA 立川:大分違っていた。SRB が 4 本付いて、2 倍になっているので、大変大きな音になった。また、ロケットの上昇速度が早くなった。

(2) ひので(SOLAR-B)の現状と初期観測成果について

これも、JAXA の立川理事長が口火を切り、担当していた小杉先生の急逝したこと、後任の体制が固まりそれに説明させることを述べた後、井上理事が資料 45-2(「ひので」の初期観測)の衛星の部分を説明し、国立天文台の常田教授が観測成果を紹介した。その後、下記の質疑応答があった。なお、観測成果の幾つかは動画で紹介された。

野本:今は太陽活動の極小期ではないのか。

天文台 常田:極小期である。観測ができないのではないかと心配していたが、驚くほど鮮明な観測ができた。太陽の活動が活発になれば、更に有意義な観測が期待できる。

野本:衛星の設計寿命はどのくらいになっているか。

JAXA 井上:3 年を目安に設計を行った。

野本:それでは短くて、極大期までもたないのではないか。

天文台 常田:5 円持てば極小期から極大期までカバーできるが、3 年でも十分に成果が期待できる。

井口:小杉先生もテレビの放送で「磁力線の一本一本が見える」と話していたが、絵で説明するときの便法だと思っていた。どうということなのか。

天文台 常田:磁力線は実体を持ったものなので、自分もそのように説明を行っている。ただ、何を以って一本とするかは少々説明が難しい。

井口:磁力によって加熱するという説明があったが、どういうことなのか。

天文台 常田:ゴムを引っ張るようなものと考えていただきたい。磁場の力がかかっているところでプラズマが動くとき加熱される。